

令和4年6月17日

## 6月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は引き続き順調。共販所への入荷量は降雨の影響で若干減少した。大手製材所は十分な原木在庫があり、虫害も出始め買い控え感がある。スギ3m柱材は16,000円後半から17,000円で横ばい。中目材は15,000円台に値下がり。ヒノキ3m柱材は25,000円台、4m中目材は24,000円を切り弱気配。

群馬では出材が全体的に増加し原木入荷は回復。スギ4mの14cm上は合板用原木の影響で値上がり傾向にある。引き合いは全般的に良くプレカット工場への納材も順調。製品在庫は下地材、貫、胴縁がない。ラス下、バタ角、野地板の引き合いも多いが在庫がない。製品価格は高値安定で以前の最高値に戻りつつある。

### 2. 米材

産地では米国内の原木価格が高原状態で推移しているが、伐採は順調で不足感は見られない。カナダBC州では立木価格の高騰と州政府による伐採制限で原木供給が限定的である一方、米国向け製材品生産が好調で原木需給が逼迫しており、港頭在庫は低水準で推移。米国の港頭在庫は積み上げまでには至っていないが、輸出用原木が不足する環境にはない。米マツIS級並の6月対日輸出価格(推定)は前月と同じく\$1,330/千SCRで決着した模様。米国の住宅着工は依然高水準であるが、金利上昇やインフレによる様子見で北米製材品市況は下落している。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(6/3)は\$699/Mで5月頭に比べ28.0%の下落。SPFサプライヤーは製品輸送が制約され、減産調整に入り、適正在庫に努めている。米国西岸港湾の現労使協定が7/1で期限を迎えるが、現在のところ目立った進展はなく、長期化する恐れがある。

4月原木入荷は215千 $m^3$ で今年最高、1~4月累計では756千 $m^3$ (前年同期比1.7%減)、カナダからの入荷は前年比2.6%増とほぼ前年並み。出荷は199千 $m^3$ となり入荷同様に今年最高、1~4月累計は730千 $m^3$ (同6.4%減)、在庫は若干増加し144千 $m^3$ となり、在庫率は0.82ヵ月と1ヵ月割れが継続。東京木材埠頭の5月製品入荷はバルク船の入港がなく11千 $m^3$ (前月比42.6%減)、出荷は20千 $m^3$ (同2.9%減)、在庫は50千 $m^3$ (同14.2%減)。正角の引き合い

が強く、割物は輸入物中心の一部地域で回復気味ではあるが、最低限の当用買いの動き。

### 3. 南洋材

サラワク州では5月に入り天候は良好で伐採も進んではいるが、一部シッパーは伐採許可が取れていない。日本向け配船は6月末～7月初旬の予定。PNGでは天候が回復し、徐々に原木生産は増加してきている。日本向け配船は6月下旬の予定。サバ州では日本商社が船積みを計画しているが、6月末の日本向けには間に合わない可能性が大きい模様。フリー板のマーケットは依然として悪い。マレーシア、インドネシアからのコンテナ不足は徐々に回復。6月予想の原木入荷は0千 $m^3$ 、出荷は2千 $m^3$ 、在庫3千 $m^3$ 。製材品入荷は26千 $m^3$ 。

### 4. 北洋材

ウクライナ侵攻問題の発生前の産地大手シッパーの契約残については出荷がほぼ完了したと見られ、6月中に全て入荷する予定である。問題の発生後、一部商社は新規契約を見送っているが、輸入を継続している商社もあり、供給力は減るものの最低水準の入荷は確保される模様である。新型コロナウイルスによる中国市場の消費停滞、対日輸出の減少、シベリア地区の森林火災の影響もあり、産地シッパーの生産意欲は上がらない局面になっている。産地側ではアカマツ原板、現地挽き野縁製品ともに価格据え置きを主張しているが、日本側は値下げを希望。現地挽き野縁製品の仮需はなくなり、5月の販売は引き合いもなく低調で流通在庫が増えてきている。国内挽き製品も引き合いが少なく、荷動きは悪くなっている。4月の製品入荷(東京+川崎)は15千 $m^3$ 、出荷は20千 $m^3$ と仮需も一服、在庫は44千 $m^3$ と減少し始めたものの、まだ高水準である。

### 5. 合板

合板用原木のスギは安定してきたが、カラマツ、米マツは依然不足。国産材は高止まり、米マツは値上がりが続いている。ロシア単板の輸入禁止の影響は6月から表面化し、生産が伸び悩む恐れがある。

4月の国内合板生産量は26.3万 $m^3$ 、うち針葉樹合板は25.8万 $m^3$ 、出荷量は25.1万 $m^3$ で在庫量は10.1万 $m^3$ 、うち構用合板の在庫は8.3万 $m^3$ 、在庫率0.4ヵ月とかなりの低水準。針葉樹合板は需要家からの差し迫った出荷要請は減少してきたが、依然引き合いは強く需給は緩んでいない。5月は稼働日数が少なかった分、供給が減っている。6月の合板メーカーの値上げにより一服す

るとの見方も出ているが、依然予断を許さない状況が続くだろう。輸入合板では針葉樹合板の品薄感により 12mm 系の値上がりが加速している。特にラワン構造用合板、塗装合板、下地合板に品薄感がある。4 月の合板輸入量は 24.2 万 m<sup>3</sup> (前月比 10% 増) で主要国からの輸入量は概ね増加、特に中国からの針葉樹合板の入荷量が月を追って増えており、需給への影響が懸念される。インドネシアでは天候不順で原木不足が続いており、合板メーカーのコストは上昇しているが、日本からの引き合いは弱く、価格は膠着状態。マレーシアでは日本からの引き合いは旺盛で各工場はフル生産体制となっているが、原料、労働力の調達に苦慮しており、合板生産量は頭打ちの状態が続いている。

## 6. 構造用集成材

コンテナ船の動きが一時期と比べ安定している。今年第 1・四半期契約分が入荷する 6 月まではラミナの確保に懸念材料はない。7 月以降も 7 割程度の契約量ではあるが、現状在庫から見ると概ね良好な入港状況といえる。第 2・四半期契約価格は欧州での内需向上により €570~600/m<sup>3</sup> 程度となり、6 月から夏にかけて入港する。急激な円安ユーロ高で輸入コストは上昇し、港着 90,000 円/m<sup>3</sup> 以上となる。輸入集成材の国内流通価格は 145,000 円/m<sup>3</sup> 周辺、第 3・四半期契約価格は €920 ほどで輸入コストは円安の影響もあり、上昇する見込み。

## 7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強いが入荷は例年並み。解体材は発生、入荷ともに例年並みだが、大手のボイラーの定期修理のため切迫感はない。ただし下期以降の集荷には警戒感が強い。製紙用では国産針葉樹チップの増集荷基調は継続しているが、下期以降の消費にやや陰りが見られる。燃料用の消費は一服感があるが、例年に比べ余剰感は少ない。今年は燃料用の在庫が増えて行かない。

## 8. 市売問屋

スギ羽柄材、ロシア産アカマツ製品の値上げで、暫く様子見が続く模様。国産材 KD 構造材は高止まりのままで、これから GR 材の値上げになってくる。外材構造材は都内でバンドル買い出来る材木店が少ないので市場内の動きは良くない。造作材では国産材の GR 材の動きは良いが、外材は単価高止まりで当用買い。

## 9. 小売

住設機器の納期が遅れ、木材以外の影響が出ている。町場の工務店も半ば諦め感が見られる。スギ構造材の荷動きに大きな変動はないが全体的に強含み。ヒノキは柱・土台が主であったが、タルキなど羽柄類が少し動き始め、価格は保合。米材は価格が上昇しているが、今のところ混乱はない。欧州材

やロシア材は各店がある程度在庫を確保したので強含みながら一服感がある。先行き関税や円安の影響がどのくらい出てくるかは不透明である。プレカット工場は連休前後に忙しい様子であったが、連休後は少し落ち着いてきた。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↗	↗	↗
北洋材	丸太	輸出禁止	*	*
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↘	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級 アカマツ (KD) 16×40上級	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 3.0×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
		//	10.5×10.5×2.98m	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
	欧州産	//	型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6 タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6 針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗